

— コンサルタントエンジニアとは？

小林 クライアントの潜在ニーズをシステム化に結びつける部分を重視したシステムエンジニア(以下、SE)のことです。顧客の要求をシステム構築に反映させることは、元々SEの本分なのですが、今のSEは単なる「技術屋」が多いので、私達はその部分を明確に区分したかったのでコンサルタントエンジニアと呼び育成に力を入れていました。

— 育成に力を入れている理由は？

小林 近い将来、海外(特に東南アジア)のエンジニアが大量に日本に流れ込んでくると予想しています。日本のSEがその中で生き残るためには、コンサルタントの部分より強化していく必要性があると、自身の経験を通じて思っています。

— そのコンサルタントを行う上で、一番大切なのが、クライアントとのコミュニケーション

ケーションなどのヒューマンスキルです。

ヒューマンスキルとITの技術力をバランスよく伸ばしてあげることがコンサルタントへの近道だと思っている。その点を重視して育成に力を入れているということなんです。

— コンサルタントエンジニアの魅力とは何か？

小林 コンサルタントエンジニアは、様々な業種、業態のクライアントに接するのでビジネススマンとしての見聞が広がります。また、色々なビジネス形態を目の当たりにすることで、新しいビジネスモデルを見つけられる可能性がある点も魅力です。

杉林 確かに、幅広いクライアント相手に仕事ができる点に魅力を感じています。コンサルタントの部分なら、金融専門のSE、流通専門のSEでなくとも担うことができます。



代表取締役

こばやし じゅん

小林 純氏

大学院生
積極採用企業
株式会社アンリミテッド

対談

代表取締役 × 大学院卒社員

コンサルタントエンジニア

すぎばやし かずのり

杉林 和紀氏

東京電気大学大学院 理工学研究科
数理解科学専攻 修士課程 修了

大学院を出てアンリミテッドに入社し、
コンサルタントエンジニアとして仕事をしてみると、
大学院で培ってきたことは無駄ではなく、
むしろその経験値の高さに気付かされました。



務教育の延長のようなイメージが強くなってきています。教授が教えてくれるから勉強する。学ぶことに対して受身な人です。しかし、大学院にはもっと学びたい人が集まります。自らの意思で進学を決め、自ら方針を定めて研究をしていくので、大学院生は学ぶことに対して能動的で、その部分が仕事をすると同時に活かされると思います。いくら面倒見のいい会社でも1から10までは教えてくれませんから。

— 他には何かありませんか？

杉林 社会人になって気が付いたんですけれど、マネージャーもしくはそれに近い人になればなるほど、文書を書く量がドンドン増えていくんです。

文書の整ったドキュメントを作成できる能力には、論文を書いてきた経験が活かされていると思います。それから、

プレゼンテーション能力に関しては、論文の口頭発表の練習が役に立っていたと感じています。緊張感、教授の前でよりもクライアントの前の方がドキドキです(笑)。

他にも、大学院で読んできた文献の9割が英語論文だったので、海外のIT製品に関するドキュメントを読むのに抵抗がないというのがあります。

— IT業界における文系、理系の差はありますか？

杉林 理系の私が言うのも変ですが、殆どないと思いますよ。

確かに入り口のところで多少の差はあるかもしれませんが、理系の学生と文系の学生が知っているレベルの差など、実際の業務で使う技術力に比べれば大して問題にならないんですよ。結局のところ、入社後にどれだけ頑張るか、ということだけです。



大学院生には、研究活動を通して培われた下地がある。
是非、当社で技術や経営力、マネジメント能力を身につけ、
将来は社長になってもらいたい。
それだけの充実した環境を用意している。



— 大学院生へのメッセージをお願いします。

小林 大学院生には研究活動を通して培われた下地が既にあると思います。学部卒とのキャリアの差を埋め合わせようとする人や、大学院で学んできたものをダイレクトに仕事に結び付けることにこだわるのはやめた方がいいと思います。もっと視野を広げて、自分を生き生きと表現できる社風の会社を探し、自分を積極的にアピールする方がいいんじゃないでしょうか。心地よく仕事ができる環境さえ見つかれば、結果は後からついてくると思います。

杉林 就職活動をしていた時、確かに、私は人より遅れていると感じていました。でも、実際に大学院を出てアンリミテッドに入社し、社会人として仕事をしてみると、大学院で培ってきたことは無駄ではなく、むしろその経験値の高さに気づかされました。自分が何をやりたいか、何に向いているか、ということを考えるより、どこでやりたいことをやるかを考えた方がいいんじゃないでしょうか。人より歳を重ねていたことが、私にとっては得だったこともあるし、どうか、大学院で身につけてきた経験値を就職活動の中で活かして下さい。

— 御社の強みである「就業環境」について、社員育成で意識している点がありますか？

小林 「自ら考えて、自ら実行する」、ここに弊社における社員育成の根幹があります。実際、私がやった方が早い仕事はたくさんあります。それでも社員同士でコミュニケーションを取り、みんなで考えて行動して欲しいという願いから、時間がかかっても、遠回りだと思っても「私の言った通りにやれ」とは言わないようにしています。

杉林 私も、社員の主体性を促してくる点でアンリミテッドには非常に恵まれた就業環境があると感じています。

— このような方針を採用した狙いは何ですか？

小林 言われたことだけを淡々とこなしたところで先がないし、いつまでも「いち担当者」で訳にはいかないでしょう？「君、明日からマネージャーね」と言われ自分が指示を出す側に立った時に何もできないようじゃ、話にならないんです。

杉林 確かに、社長の方針に従ってやっていると、物事を俯瞰的であったり、客観的に見る力が養われたと思います。

— その先は何を見据えていますか？社長の願い(夢)は何ですか？

小林 自ら動ける人は、それなりに経験値がついてくると、技術以外にも経営やマネジメントの部分も突き詰めたいと思うんです。そうすると、アンリミテッドという箱の中では収まりきれなくなり、外へ出たくなる人もいます。その時にそういう人が経営者として新しい会社を立ち上げ、その会社とアンリミテッドがうまく連携できれば、お互いに成長できるんじゃないですか。このような繋がりが築けたら、これが私の一番の願いなんです。だから、今の段階

から自ら考えて自ら動かなければ、ここまでの考えに至らないでしょ。

杉林 私も将来、「アンリミテッドなんか」って会社を創って独立できれば(笑)。

小林 本当にそう思いますよ。社員が1000人いる大きな会社でも社長は1人。それなら1000人社員がいる会社を10社創り、10人の社長がいた方が業務を連携する上で、よっぽどメリットがあるんじゃないかな。

— どのような人材を求めていますか？

小林 人にはなくとも人間性、ヒューマンスキルを重視します。きちんと挨拶や報告ができるとか、責任感があるとかそういう基本的な部分が大切なんです。そうじゃなければ、いくら技術を教え込んだところで、その技術は活かされないんです。我々はエンジニアですから、技術者なんです。ですが技術者であると同時にビジネススマンなんです。技術をビジネスに繋げられないエンジニアなんてすぐに寿命が来ます。

— 実際に入社してみてどうでしたか？

杉林 誰とでもコミュニケーションが取れる会社だと実感しています。大学院卒は学部卒よりも年齢が高いので、学部卒に出来て私に出来なかつたら!?という不安はありません。でも、そんな心配は不要でした。入社した時から周りの社員が助けてくれたし、何かにつけてコミュニケーションを取ってくれました。お陰で私からもコミュニケーションが取れるようになり、わからないことは何でも聞けるようになりました。ちょっと困っていると、普通に上司や同僚から声をかけてもらえるのが嬉しいですね。

— 大学院で培ってきたものがどう活かされていますか？

杉林 今日の大学は四年制までだと義

UNLIMITED
株式会社アンリミテッド

株式会社アンリミテッド

所在地: 東京都中央区京橋2-8-8 新京橋ビル2階
設立: 2003年5月2日
資本金: 3,000万円

TEL: 03-5524-7441 FAX: 03-5524-7586
URL: http://www.unltd.co.jp
Mail: enter09@unltd.co.jp

大学院生へのメッセージ: 対談からもお分かりいただける通り、アンリミテッドは大学院生の採用に積極的です。更に詳しく知りたい方は、一度、当社を見学に来ませんか？お一人でも、お友達同士でも大歓迎です。SEってどんなことをするのかなど、様々な疑問にお答えいたします。お気軽にお問い合わせください。

【問い合わせ先】

採用担当/高沢 佳子、佐々木 昌夫
TEL: 03-5524-7441
Mail: entry09@unltd.co.jp